

佐藤・井上両者慎重な立ち上がり。



↑序盤はやや佐藤ペース。
→最終ラウンド、井上がコーナーに佐藤を追い詰め減多うちにするシーンも。

→工藤暫し砂田を圧倒。
↑工藤のパンチが砂田を揺るがせる。

→勝利者インタビューでは「向こうがコールされても……」と心境を語った。

やや砂田有利にこの状態が3ラウンドまで続き、セコンド陣も次第にじれだし、激しく叱咤するシーンも。指示に従って距離を取って戦う砂田がこのラウンドをわずかに制した。

試合後半の4ラウンド以降、工藤はパンチ、肘に加え、バックキック、回転肘打ちなどトリッキーな技も繰り出し砂田を攪乱した。

5ラウンドになると工藤のパンチが砂田を捕らえ、ぐらつかせることも。しかし両者最後まで決定打に欠けたまま時間が切れ、三者三様の判定によりドロー。砂田は薄氷の勝利でタイトルを守った。

試合後のインタビューで砂田は「おされてました。向こうがコールされても仕方ない」と胸の内を語った。

ライト級タイトルマッチ

△佐藤堅一(土道館)

(ドローオー)

△井上哲(山本)

1、2ラウンド両者距離をとってローキックやパンチを出し、慎重な立ち上がりを見せる。佐藤のほうが手数ではヒットしていたが、点数差になるほどではなかった。

試合が盛り上がってきたのは4ラウンド。佐藤の攻勢に対しチャレンジャーの井上は対等に渡り合い、積極的に肘も出し、このラウンドを取った。

5ラウンドでは両者意地を見せ、激しい打ち合いとなったが、井上が数度に渡り、佐藤をコーナーに追い詰め、肘、膝を浴びせ掛けた。佐藤も決して消極的だったわけではないが井上の猛攻の前にクリンチで危急を脱する場面もあった。

井上の判定勝ちかとも思えたが判定は49-49・50-50・49-49でドロー薄氷のタイトル防衛となった。

表彰からリングを降りるまで終始うつむいていた佐藤が印象的だった。次回の試合に期待したい。